抄本「黒旋風雙獻功雜劇」訳注
（楔子・第二折）

蔡　　麗　玲
林　　雅　清
井　上　泰　山

※テキストは「脈望館鈔校本古今雜劇」所収の抄本。今回は楔子と第二折を掲載。なお，その他の凡例は本誌前号「抄本「黒旋風雙獻功雜劇」訳注（第一折）」参照。

【原文】

楔子

（搽旦上云）昧己瞞心事，恣情縱意為。世人不能曉，惟有老天知[1]。妾身[2]是孫孔目的渾家郭念兒的便是。有孫孔目街市上尋護臂去了，我瞞[3]着他，我和這白衙内兩箇有些不伶俐的勾當[4]。我着人尋他去了[5]，可怎生這早晚[6]還不見他来也？（净扮白衙内躧竹馬兒上云）[7]村入骨頭挑不出，俏從胎裏帯将来[8]。自家白赤交的便是，官拜衙内之職。我是那權豪勢要之家，打死人不償命，常川則是坐牢[9]。有這孫孔目的渾家是郭念児，和我兩箇有些不伶俐的勾當。他着人来尋我，我如今到他家裏，若是無他夫主[10]，我和他説幾句話。可早来到門首也。孫孔目在家麽？（搽旦云）這個是他来了。不在家[11]，你進来。（白衙内做見科）（旦兒[12]云）我着人尋你，你在那里來，這早晚纔來！（白衙内云）我也忙，你喚我做甚麽[13]？（搽旦云）如今孫孔目同我要往泰安神州燒香去，他説在火爐店[14]裏安下。我有一計，你便先去

那里等着，我有両句兒唱，你則聽着。我便道“眉兒鎮常圪[15]皺”，你便唱“夫妻每醉了還依舊”。我說“衙内”，你說“念兒”[16]。我和你両箇跳上馬便走。（白衙内云）此計大妙。你先到那里，你便等我；我先到那里，我便等你。若見了你呵，跳上馬，牙不約兒赤[17]便走。火爐店上等着你，跳上抹鄰一道煙[18]。（下）（搽旦云）他也去了也。這早晚孫孔目敢待来也[19]。（孫孔目同正末上云）兄弟也，来到我家門首也。你過去與嫂嫂厮見咱。（正末云）哥也，請嫂嫂厮見咱。（孫孔目云）大嫂，我尋了箇護臂，是重義[20]，你和他厮見咱。（正末見旦兒科云）嫂嫂休恠也，恕生面少拜識。（搽旦云）[21]臉腦兒恰似箇賊。（孫孔目云）你好歹口也，他聽着里。（正末云）哥哥，您兄弟[22]有一句話，可是敢說麽？（孫孔目云）兄弟，有是麽話說？（正末云）俺嫂嫂[23]敢不和哥哥是兒女夫妻麽？（孫孔目云）你好眼毒也！你怎麽便認将出来？（正末云）哥也[24]，我便認出来也。

【金蕉葉】[25]**你看他那說話處呵**，（帶云）恕生面少拜職[26]。（唱）**他做多少丟眉弄眼色**[27]。（搽旦云）你看我這幾步兒走。（唱）**你看他那行動處呵**，（帶云）哎約[28]！娘也！又不是那小脚兒，豎里一尺，横里五寸。（唱）**哎約，姐姐做多少家鞋弓襪窄**[29]。**可怕不打扮的十分像胎**[30]。（帶云）哥也！不是您兄弟口歹也。（唱）**你可敢記着一場天来大小利害**[31]。

（孫孔目云）大嫂，收拾行李，喒燒香去来。（同下）

（净店小二上云）[32]買賣歸来汗未消，上床猶自想来朝。為甚當家頭先白，一夜起来七八遭[33]。小可人[34]是這火爐店上一箇賣酒的。但是南来北往官員士庶人等進香的，都在我這店中安下[35]。我今日開開板搭，燒的鏇鍋兒熱，看有是麽人来[36]。（正末同孫孔目搽旦上）（正末云）哥也，来到這火爐店也。小二哥有麽？（店小二云）官人每打了夥[37]過去。（正末云）有乾净房兒麽？俺住一住。（店小二云）官人請裏边来。有頭一間房子乾净，正好老官兒們[38]住。（孫孔目云）小二哥，把俺這大嫂寄在這里，俺両箇泰安州占房子便来也[39]。大嫂，你則在這店中頭一間房子裏等着，我和兄弟占了房子便来也。（搽旦云）你可早些兒来，我可害怕。（正末云）嫂嫂，你則在這里，我

和俺哥哥占了房子便耒也[40]。哥也，去耒波！（搽旦云）孔目，你則早些兒回耒。（孫孔目云）我知道。（正末云）阿？這箇嫂嫂！我恰纔不說耒，和哥哥占了房子便耒也[41]。（搽旦云）孔目，你是必早些兒耒，休着我憂心也。（正末云）去也[42]！這箇嫂嫂！你直這般割捨不的那？

【金蕉葉】[43] 哎，你嫂嫂莫得見責。也則是看覷俺為人在客[44]。我恰纔囑付了三回五鮮[45]。（搽旦扯孔目科云）孔目，你早些兒回耒。（孫孔目云）我便耒也[46]。（正末扯孔目走科唱）[47] **嫂嫂不索說，我和哥哥便耒也，我恰纔囑付[48] 了店家安撫了嫂嫂，天色晚也，則去兀那泰安州尋一箇家頭房子裏喒去耒[49]。**（同下）

（白衙内上云）自家白衙内的便是。有郭念兒約我在這火爐店内相等，我便耒到這里。他不知在那里？（搽旦云）不知那白衙内耒了也不曾？我是[50]唱一聲咱。（唱）眉兒鎮常圪皺。（白衙内唱）夫妻每醉了還依舊。（白衙内云）[51] 念兒。（搽旦云）衙内。快上馬，俺去耒[52]。（同下）（店小二云）怎麽了？恰纔那官人寄下的女人平白的唱了一聲，外前[53] 一人也唱了一聲。他両箇私奔走了。如今他那弟兄両箇耒時，我可怎麽回他的話？（孫孔目上云）我與兄弟泰安州[54] 占了房子。我想我那大嫂，他[55] 独自一箇在那店肆中，我放心不下。我撇了我那兄弟，看我那渾家去。耒到這店肆中。我那大嫂也！（店小二云）哥，是我[56]。（孫孔目尋科云）你怎麽在這里？店小二[57]，我渾家那里去了？（店小二云）我說則說，你休煩惱。你両個占房子去了，你那嫂嫂平白的他要唱，唱是麽“眉兒鎮常圪皺”[58]，外前一箇人也唱了一聲[59]“夫妻每醉了還依舊”。一箇說“念兒”，一箇道“衙内”[60]。無三念，無両念，則一念，他就念的走了。（孫孔目云）我兒也！你死也！我的渾家寄在這里，着人拐的走了。我倒由閑可[61]，等我兄弟耒時，他便和你說話也。渾家好妍貌，生的十分俏，被人拐了去，須索把狀告[62]。（同下）

第二折

（正末上云）自家山兒的便是。和俺哥哥草叅亭[63] 上占房子去耒，三轉身不

見了[64] 俺哥哥，想必去那店肆中望俺那嫂嫂去了也。時遇春天，是好景致也[65]！

（仙呂）【點絳唇】[66] **柳絮飛花，亂紅飄葉[。]紛紛謝[67]。鶯燕調舌。此景堪[68] 遊冶。**

【混江龍】[69] **春光明曄。路行人拂袖撲蝴蝶。你覷那推車打擔，客旅人絶[70]。墻角畔滴溜溜草稕兒挑，茅簷外踈剌剌日偏斜[71]。你覷那做買賣的人家業。人煙熱鬧，買賣宜别[72]。**

（正末云）是好景致也[73]。

【油葫蘆】[74] **三月春光景物别。好着我難弃捨。你覷那[75] 佳人仕女醉扶者。你看那桃花杏花都開徹。更和兀那梨花初放如銀葉。**（白衙内同搭旦[76] 上）（白衙内云）大姐，喒行動些。（唱）**我這里七留七林[77] 行，他那里叨叨絮絮[78] 説。又被這夥喬男喬女将咱耒拽。**（白衙内撞倒正末科）（白衙内云）不中！走，走，走！（同下）（唱）**田地上赤留兀剌那時節。**

（正末云）甚麽人絆我這一交[79]！不是趕俺哥哥忙呵，我不道的饒了你也。

【天下樂】[80] **打的那一馬匹不剌剌走不迭。**（孫孔目同店小二上）（孫孔目云）我那渾家那里去了也。（唱）**我這里便觀也波絶。他那里無話説。我見他自推自跌[81] 自哽咽。我和你便一處行，我和你便[82] 一處歇。哥也，不知道你煩惱因甚也。**

（正末云）哥也，怎麽撇了我先耒了那？怎生不見俺嫂嫂[83]？（孫孔目云）兄弟，你休問我，你則問店小二去。（正末云）兀那店小二，俺嫂嫂呢？（店小二做怕科）（孫孔目云）你則問店小二。（正末云）兀那厮，俺嫂嫂呢？（店小二云）着人拐的去了。（正末云）怎生着人拐将去了也？（正末做打店小二[84] 科云）哥也，你放手。

【醉中天】[85] **則俺這拳起處如刀切。恨不的打塌這厮太陽穴。**（孔目撇[86] 正末科云）兄弟也，干他甚麽事？（正末云）哥也，你放手。（唱）**你将我這臂膊休搬放[87] 了者。**（正末云）我不打這厮别。（唱）**打這厮強奪人妻妾。**（帶云）兀那厮，可不道寄在不寄失。（唱）**你是個小主人家，可不道管着一箇**

甚也。我恨不的一把火刮刮匝匝。燒了您[88] 這村房舍。

（正末云）哥也！ 我見耒，我見耒！ 一箇男子漢一箇婦女人，両個疊騎着馬，我正行走着里，被那馬撞了我一交。我待要趕去耒，不曽赶[89]。哥也，打與你一箇摸状兒，我見那厮穿的那衣服鞍馬[90]，看是也不是[91]？（孫孔目云）店小二，着我兄弟説他穿的衣服，和你両箇對，看是他麽[92]？（店小二云）哥，你説将耒，看是也不是。

【後庭花】[93] 那厮緑羅衫絲似[94] 玉結。皂頭巾環是減鐵[95]。（店小二云）正是。（唱）他戴着箇玉頂子新樓笠，穿着對錦沿边乾皂靴。（店小二云）正是[96]。（唱）那厮常好是忒蠢蠢。架着那鵰児小鷄，馬兒上更馱着一箇女艶質[97]。

（孫孔目云）眼見的他是一箇權豪勢要之家，着他拐了去了罷[98]。（正末云）哥也，那厮走的也不遠，我與你赶去[99]。（孫孔目云）兄弟，你休去。你這一去，則是你獨自一箇，他那里人手極多，你手里又無兵器，則怕你近不的他也。

【尾聲】[100] 我去呵[101] 也不用一條槍，也不用三尺鐵。則俺這壮士怒目前見血。東泰嶽相逢磕塔的揪住玉結[102]。把那厮滴溜撲馬上活挾。他若是與時節。萬事都休[103]，不與山児放會劣缺。惱起我這草坡前倒拖牛的性格。強逞我些敵官軍勇烈。我把那厮脊梁骨各支支生撇做両三截。（下）

（孫孔目云）兀那厮，你認的拐了我渾家的那箇人麽？（店小二云）他是那白衙内，又喚做甚麽白赤交。（孔目云）既然是這等，我去大衙門裏告這厮走一遭去。我那大嫂也，則被你想殺我也！（下）（店小二云）怎麽了？ 那一箇赶那厮去了，這一箇告状去了。他這一去[104]，赶不上回耒，我可怎了？我関上門，我也家去了罷[105]。今日造化低，其實把心虧。別人得懽喜，我便講是非。

【訳文】

楔子

（搽旦（ちゃたん）登場，せりふ）良心くらまし悪事をほしいまま。世間の人には悟ら

れず，お天道さまのみ知っている。わたくしは孫孔目の妻の郭念児でございます。主人は街に用心棒を探しに行きました。わたくし，主人に隠れて，以前から白衙内さまとちょっとうまくやっています。さて，人をやって衙内さまを呼びに行かせましたのに，どうしていま時分になってもまだいらっしゃらないのでしょう。（浄，白衙内に扮し春駒(はるごま)に跨(またが)って登場，せりふ）野暮は骨身に染み付いているが，見た目のよさは生まれつき。わしは白赤交，衙内のお役に就いている。権力のある豪族の出ゆえ，殺しの罪も命で償(つぐな)う必要はなく，いつも牢獄入り程度で済んでいる。さて，かの孫孔目の奥方，郭念児とは人目をしのぶ仲。その念児が，わしを呼びに人をよこしてきた。これからやつの家に行くところ。もしも亭主がいなければ，念児と話でもしよう。早くも着いたぞ。孫孔目どのはおいでか。（搽旦せりふ）衙内さまがいらしたわ。主人はおりませんわ。どうぞお入りください。（白衙内，あいさつをするしぐさ）（搽旦せりふ）衙内さまをお探ししに行かせておりましたのに，いったいどこに行ってらしたの。こんな時分になっていらっしゃるなんて。（白衙内せりふ）わしも忙しいのだ。何かあったのか。（搽旦せりふ）これからあの人と泰安神州にお参りに行くのです。あの人は旅籠(はたご)に泊まると言いました。そこで一計を思いついたのですが，衙内さまは先に向こうに行って待っていてくださいな。合言葉を二つ考えましたから，ちょっとお聞きになって。わたくしが「いつも眉間にしわを寄せ」と言いましたら，衙内さまは「夫婦は酔えば元の鞘(さや)」と唄ってください。そして，わたくしはまた「衙内さま」と言いますから，衙内さまも「念児」と呼んでください。二人で馬に飛び乗って逃げましょう。（白衙内せりふ）それはうまい考えだ。お前が先に着けば，わしを待つ。わしが先に着けば，お前を待つ。顔を合わせしだいすぐ馬に飛び乗りさっさと逃げる。旅籠でわしはお前を待ち，馬に飛び乗り一目散。（退場）（搽旦せりふ）行ってしまわれた。そろそろあの人が帰ってくるはずだわ。（孫孔目，正末と共に登場，せりふ）弟よ，我が家に着いたぞ。女房にあいさつして

くれ。（正末せりふ）なら兄貴，姉さんを呼んでおくれ。（孫孔目せりふ）念児や，用心棒を見つけてきたぞ。重義という御仁だ。出てきてあいさつしなさい。（正末，搽旦にあいさつをするしぐさ，せりふ）姉さん，ご無礼お許しを。お初にお目にかかりやす。（搽旦せりふ）山賊の顔つきだわ。（孫孔目せりふ）おまえは何てことを言うのだ。聞こえるではないか。（正末せりふ）兄貴，お聞きしてぇことがありやすが，いいですかい。（孫孔目せりふ）弟よ，何かね。（正末せりふ）姉さんとは許婚じゃねえんでしょ。（孫孔目せりふ）お前はなんとも目の利くやつだ。どうしてそれが分かった。（正末せりふ）兄貴，一目ですぐにわかりやしたぜ。

【金蕉葉】**ほら，あの女の口ぶりときたら。**（いれぜりふ）お初にお目にかかりやす。（うた）**どれほど色目を使ってやがるか。**（搽旦せりふ）ちょっとわたくしの歩き方を見てくださいな。（うた）**ほら，あの女の歩き方ときたら。**（いれぜりふ）おい，なんてこった！　大足じゃねえか。縦に一尺，横に五寸はあるぜ。（うた）**おやおや姉さん，そんなに纏足（てんそく）の真似をして，なんと本物そっくりじゃねえか。**（いれぜりふ）兄貴，おいら口が悪いんじゃねえよ。（うた）**とんでもねえ災難降りかかること，お覚悟なされ。**

（孫孔目せりふ）念児や，荷物をまとめてお参りに行こう。（全員退場）

（浄，店小二に扮して登場，せりふ）商売終えて，帰って汗も引かぬうち，床に入（い）っても明日のことが気にかかる。店の主（あるじ）はなぜ白髪になる，一晩中，何度も何度も目覚めるから。あっしはこの旅籠で酒を売る者でごぜえやす。南からも北からも，お参りにやってくるのはお役人でも庶民でもみんな，この店で休んでいくんでさ。さて，今日も板戸を開けて，燗（かん）なべにお湯を沸かして，お客がくるのを待つとしよう。（正末，孫孔目と搽旦と共に登場）（正末せりふ）兄貴，旅籠に着いたぜ。番頭いるか。（店小二せりふ）だんながた，どうぞどうぞ。（正末せりふ）こざっぱりした部屋はあるかい。ちょっと休ませてくれ。（店小二せりふ）だんな，どうぞお入りくだ

せえ。とりつきの部屋が片付いておりやすから，だんながたにちょうどようございます。（孫孔目せりふ）番頭，妻を預けておく。私たちは泰安州で宿を取ったらすぐに戻ってくる。念児や，このとりつきの部屋で待っていておくれ。兄弟と宿を取ったらすぐに戻るから。（搽旦せりふ）だんなさま，早く戻ってきてくださいね。心細いですから。（正末せりふ）姉さん，ここで待っているんだぜ。兄貴と宿を決めたらすぐ戻ってくるからな。兄貴，行きやしょう。（搽旦せりふ）だんなさま，一刻も早く戻ってきてくださいね。（孫孔目せりふ）わかった。（正末せりふ）おい，姉さん！　さっきおいらが，兄貴と宿を取ったらすぐ戻ると言ったじゃねえか。（搽旦せりふ）だんなさま，きっと早く戻ってきてください。心配させないでくださいね。（正末せりふ）いい加減にしな！　姉さんはそんなに兄貴から離れたくないってのかい。

【金蕉葉】なあ姉さん，そんなにせっつくのはやめてくれ。おいらたち，いまは旅の途中だぜ。さっきから，おいらが何度も言ってるじゃねえか。（搽旦，孔目を引き止めるしぐさ，せりふ）だんなさま，早く帰ってきてください。（孫孔目せりふ）すぐに帰るよ。（正末，孔目を引っ張って歩くしぐさ，うた）**姉さんそんなに言わずとも，おいらと兄貴はすぐ戻る。おいらはさっき，店の番頭にいいつけた，姉さんのことをよろしくと。日も暮れてきた。泰安州へ，宿を探しにいざ参らん。**（孫孔目と共に退場）

（白衙内登場，せりふ）わしは白衙内。郭念児とこの旅籠で待ち合わせることになったゆえ，ここにやってきた。はて，念児はどこにいるのだろう。（搽旦せりふ）白衙内さまはもういらしてるのかしら。声をかけてみましょう。（うた）いつも眉間にしわを寄せ～（白衙内うた）夫婦は酔えば元の鞘～（白衙内せりふ）念児！（搽旦せりふ）衙内さま！　さあ，馬に乗って，早く行きましょう。（共に退場）（店小二せりふ）なんてこった。さっきのだんなが置いていった女がやぶから棒に唄い出したと思ったら，外にいたやつも突然唄い出し，二人して駆け落ちしちまった。いまにあの兄

弟が戻ってくる。そしたらあっしはどう言やいいんで。（孫孔目登場，せりふ）私は兄弟と一緒に泰安州の宿を取ってまいった。念児があの店にひとりでいることを思うと心配でならぬ。兄弟をおいて念児の様子を見に行くとしよう。旅籠に着いたぞ。念児や。（店小二せりふ）だんな，あっしです。（孫孔目探すしぐさ，せりふ）なぜお前がここにいるのだ。番頭，私の妻はどこへ行った。（店小二せりふ）申し上げやすが，怒らねえでくだせえよ。だんながたが宿を取りに出かけなすったあと，奥方が突然「いつも眉根にしわを寄せ」とか何とか唄いなさると，店の外にいたやつも「夫婦は酔えば元の鞘」と唄いやした。そいつが「念児」と呼ぶと，一方で「衙内さま」との声。三度でも二度でもなく，一度呼び合っただけで，すぐ行っちまったんでさ。（孫孔目せりふ）こやつ，生かしてはおかぬぞ！妻はここに預けておいたのに，なぜ拐（かどわか）されてしまうのだ。私はこれぐらいしか言わぬが，兄弟が戻ってきたら，きっとお前を問い詰めようぞ。わが妻は，容姿端麗，粋な美人。拐されてしまったからには，必ず訴え出てやるぞ。（全員退場）

第二折

（正末登場，せりふ）おいらは山児。兄貴と草参亭（そうさんてい）まで宿を取りにやってきたんだが，ちょっとぶらついている間に，兄貴がいなくなってしまった。きっと姉さんの様子を見に旅籠へ戻ったんだろう。いまはまさに春爛漫（らんまん），じつに素晴らしい景色だぜ。

【點絳唇】柳絮は白い花びらのよう，紅い花は落ち葉のよう。ひらひらと舞い落ちてゆく。燕（つばくろ）うぐいす囀（さえず）って，ここの景色は遊ぶにもってこい。

【混江龍】春の陽光きらめいて，道行く人は袖（そで）たなびかせて蝶を追う。ふと見れば，荷車を押し，天秤かついだ商人や，旅人の往（ゆ）き来は絶え間なし。土塀のわきにゃ，くるくると，酒林（さかばやし）が掲げられ，軒先にゃ，いくすじか，陽の光が射し込んでいる。ご覧あれ，商人たちの商いを。わいわいがやが

や人だかり，商売繁盛大賑わい。

（正末せりふ）いい景色だぜ。

【油葫蘆】春三月の景色は格別，なんとも心が惹(ひ)かれるもんだ。ふと見れば，見目好(みめよ)き女が春に酔うて寄りかかる。ご覧あれ，桃に杏(あんず)の花満開，梨の花は咲き初めて，まるで銀の葉っぱのよう。（白衙内，搽旦と共に登場）（白衙内せりふ）念児，急ぐぞ。（うた）**こっちでぶらぶら歩いていると，あっちでぶつぶつ話しているぞ。怪しげな，男と女がぶつかってきた。**（白衙内，正末を突き倒すしぐさ）（白衙内せりふ）まずい，逃げろや逃げろ。（二人共に退場）（うた）**ぶらぶら道行くその時に。**

（正末せりふ）おいらを突き飛ばしたやつぁどこのどいつだ。兄貴を追っていなけりゃ許さんところだぞ。

【天下樂】向こうは馬に鞭打って，ぱっぱかぱっぱか逃げちまう。（孫孔目，店小二と共に登場）（孫孔目せりふ）わが妻はいったいどこに……（うた）**こっちはずっと見つめているのに，あっちは黙って言葉もねえ。ただひたすらに胸を打ち，地団太踏んで咽(むせ)び泣く。行くも一緒，休むも一緒に過ごしてきたのに，兄貴はどうして嘆くんだい。**

（正末せりふ）兄貴，どうしておいらを置いて先に戻ったんだい。なんで姉さんの姿が見えねえんで。（孫孔目せりふ）兄弟よ，私に訊(き)かずに，番頭に訊いてくれ。（正末せりふ）おい番頭，姉さんはどうした。（店小二怯えるしぐさ）（孫孔目せりふ）番頭に訊け。（正末せりふ）おい貴様，姉さんはどこだ。（店小二せりふ）拐されちまったんで。（正末せりふ）なんで拐されたんだ。（正末，店小二を殴るしぐさ，せりふ）兄貴，手を放してくれ。

【醉中天】おいらの拳を振り上げりゃ，まるで刀で斬るようさ。こいつのこめかみぶん殴り，風穴あけてやりてえよ。（孫孔目，止めるしぐさ，せりふ）兄弟よ，こやつに何の関係があるのか。（正末せりふ）兄貴，止めないでくれ。（うた）**おいらの腕を押さえないでくれ。**（正末せりふ）こい

つを殴るのはほかでもなく，（うた）**人さまの女房を奪ったからだ。**（いれぜりふ）おい貴様，無くしてもらうために預けるやつなんざ，いねえだろうが。（うた）**貴様はそれでも番頭だろうが，一体何を見張っているんだ。いっそこの，おんぼろ店に火を放ち，めらめら燃やしてやりたいぜ。**

（正末せりふ）そうだ兄貴，おいらこの目で見たんだ，男と女が馬に相乗りしていくのをさ。ちょうどおいらが歩いているところに，その馬がぶつかってきたんだ。追いかけようかと思ったけどやめておいた。兄貴，おいらにその男の風体と馬の様子を，身ぶり手ぶりで話させてくれ。同じやつかどうか。（孫孔目せりふ）番頭，兄弟にそやつの風体を話してもらうから，お前が見たやつと同じかどうか，確かめてみよ。（店小二せりふ）だんな，話してくだせえ。同じやつかどうか確かめやす。

【後庭花】そいつの緑の薄衣（うすぎぬ）の紐（ひも）は玉付きで，黒い頭巾（ずきん）の飾りは滅鉄（くろがね）だ。（店小二せりふ）その通り。（うた）**真新しい玉飾（たまかざ）りついた笠かぶり，錦の縁どり施した，黒靴を足に履（は）いている。**（店小二せりふ）その通り。（うた）**そいつの身なりはご立派で，はやぶさ，はいたか，ぶらさげて，馬にはもうひとり色っぽい女が乗っていた。**

（孫孔目せりふ）見るからに権門盛家の出じゃないか。それでは拐されてもしかたがない。（正末せりふ）兄貴，やつはまだ遠くにゃ行ってねえ。おいらが追いかけてやるぜ。（孫孔目せりふ）よせ兄弟。こちらはお前ひとり，あちらは大勢。それに武器ひとつなしでは，近づくことすらできぬだろう。

【尾声】おいらが行けば，槍も要らぬし三尺の剣も必要ねえ。この壮士たるおいらが怒れば血を見るぞ。東嶽泰山で出くわしたなら，がっしり玉紐（たまひも）ひっつかまえて，あの野郎を馬からぐいっと生け捕りだ。やつが姉さんを返せばそれでよし。もし返さねば，山児のおいらは大暴れ。草原を前に逆さに牛ひく気性のおいら，官軍に勇敢に挑むこのおいら，怒りくるってやつの背を，べきべきばきばき，へし折ってくれる。（退場）

（孫孔目せりふ）お前，妻を拐したやつを見知っているのか。（店小二せりふ）白衙内でやんす。白赤交とかなんとか言うやつで。（孔目せりふ）そういうことなら，そやつを役所へ訴えに行こう。ああわが妻よ，お前のことがどれほど心配か。（退場）（店小二せりふ）どうなってんだ。あっちは野郎を追いかけてゆき，こっちは訴えに行っちまった。もしもあっちのやつが，追いつけずに戻ってきたら，あっしはどうしたらいいんで。店を閉めて，あっしも家（うち）へ帰ろう。今日はほとほとついてねえ，えらい目に遭っちまった。人の幸せなんざぁ，あっしにゃ関係ねえこった。

【校注】

1）“昧己瞞心事……”：この搽旦の登場詩，『元曲選』本には無い。なお，“瞞”は“瞞”の俗字（あるいは抄者の書き癖）。

2）“妾身”：かつての女性の一人称，謙譲語。

3）“瞞”：『元曲選』本は“瞞”に作る。注１参照。

4）“我和這白衙内兩箇有些不伶俐的勾當”：この一文，『元曲選』本には無い。第一折の搽旦の退場詩で“不伶俐的勾當”が明示されているためか。本誌前号「抄本「黒旋風雙獻功雑劇」訳注（第一折）」注11参照。

5）“我着人尋他去了”：『元曲選』本では“着人尋那白衙内來，有緊要的說話”となっている。

6）“這早晚”：“早晚”は「時，時分」の意。『西廂記』「鬧簡」にも，“我這封書去，必定成事，這早晚敢待來也”とある。

7）“凈扮白衙内躧竹馬兒上云”：“竹馬（兒）”は演劇などで用いる張り子の馬「春駒」，“躧”は「（履物などを）履く」という動詞。春駒の中に入り，上半身を出した格好で「騎馬」を表すため，“躧”という動詞が用いられている。「春駒を履く」の意であるが，訳文では「春駒に跨る」とした。春駒に跨って登場するのは，道化の表象と考えられる。なお，『元曲選』本では“躧竹馬兒”は無く，このト書を“凈扮白衙内上詩云”に作っている。

8）“村入骨頭挑不出，俏從胎裏帶将来”：白衙内の，自己の性格を表現した登場詩。“村”は粗野で無粋，あるいは無知なさま，“俏”は逆に粋なさま。すなわち，この詩の大意は「中身はないが外見だけはよい」ということ。なお，『元曲選』本ではこの二句の前に“五臓六腑剛是俏，四肢八節却無才”という二句が入っている。これも同じく，「身体だけはしっかりしているが，その身体には何の芸もない」という意。『元曲選』には，「東堂老」劇第一折

“四肢八節剛帯俏，五臓六腑却無才”，「貨郎旦」劇第一折“四肢八節剛是俏，五臓六腑却無才”など，語句に入れ替わりはあるものの，同意の登場詩が複数見える。

9）“常川則是坐牢”：“常川”は，「(川の流れのように止(とど)まることなく）常に」という意。『元曲選』の「延安府」劇第一折にも，“我是權豪勢要之家，累代簪纓之子，我打死人不償命，常川則是坐牢”とある。なお，『元曲選』本にはこの句は無い。

10）“無他夫主”：『元曲選』本では“他主夫不在家”と，白話的表現に改められている。

11）“不在家”：『元曲選』本では“孔目”という主語を補っている。

12）“旦兒”：“搽旦”のこと。以下一箇所に“旦兒”が用いられているが，共に「搽旦」と訳した。なお，『元曲選』本はこの箇所の“旦兒”のみ“搽旦”に作る。

13）“甚麽”：抄本では“甚”と“麽”の間に一字分の空白があるが，一度書いた文字を消したものと思われる。

14）“火爐店”：「旅籠」と訳す。ただ，この後さらに，別に宿を取りに行く設定であるため，この“火爐店”は宿泊施設というよりも茶店の類と思われる。なお，『元曲選』本は“火罏店”に作る。

15）“眉兒鎮常圪皺”：“圪”は“扢”（“挖”の俗字）の誤字，「刻む」の意。『元曲選』本では“扢”に作る。以下二箇所に同じ句が出てくるが，いずれも同じ。「いつも眉間にしわを刻む（寄せている）」とは，具体的に何を比喩するのか不明。あるいは次の“夫妻每醉了還依舊”を導く枕詞か。王學奇主編『元曲選校注』の注（第二冊，1821頁，注〔6〕）には“均为当时流行歌曲之词”とあるが，根拠・出典等未詳。

16）“我說“衙内”，你說“念兒””：『元曲選』本は“說”を共に“叫”に作る。

17）“牙不約兒赤”：『元曲選校注』では，明の火源吉『華夷訳語』「人事門」（“謂行曰牙不，謂約而赤曰去”）を引いて，“牙不”“約兒赤”共に“走”（行く）の意であるとしている。また，方齡貴『古典戲曲外來語考釋詞典』（漢語大詞典出版社・雲南大学出版社，2001年）にも同様の語釈がある。

18）“火爐店上等着你，跳上抹鄰一道煙”：“抹鄰”は蒙古語で馬のこと。“抹倫”あるいは“母驎”“母麟”にも作る。方齡貴前掲書参照。關漢卿「哭存孝」劇（『元曲選』）第一折に，“大小三軍上抹鄰，不披鎧甲不遮身。一道煙，形容跑得極快”とある。“一道煙”は，一目散に逃げる様子を表す。關漢卿「救風塵」劇（『元曲選』）に，“那個婦人是我平日間打怕的，若與了紙休書，那婦人就一道煙走了”とある。なお，『元曲選』本にはこの白衙内の退場詩

は無い。ただ，『元曲選』本ではこの後の“下”（退場）というト書も欠落しているため（抄本と違い『元曲選』におけるト書の欠落は稀である），退場詩を故意に省いたかどうかは不明である。

19）“敢待来也”：“敢”は「きっと」，“待”は「～するだろう」の意。關漢卿「竇娥冤」劇（『元曲選』）楔子に，“這早晩竇秀才敢待來也”とある。『元曲選』本は“爲甚不來”に作る。なお，『元曲選』では抄本に比べて“也”という語気助詞が用いられる頻度が少なく，この次のせりふの“兄弟也”を“兄弟”に作るなど，“也”を省略したり，あるいは表現を変えたりしている箇所が多い。ただ，本稿では“也”の省略・変更については，校注を付していない。

20）“重義”：『元曲選』本は“王重義”に作る。

21）『元曲選』本ではここに“呸！”という感嘆詞が入っている。

22）“您兄弟”：楔子ではこの箇所と，直後の【金蕉葉】のいれぜりふ中の二箇所（共に李逵の孫孔目に対するせりふ）に出てくるが，『元曲選』本は共に“你兄弟”に作る。なお，孫孔目に対する李逵のせりふ中では，抄本でも“您兄弟”以外はすべて“你”に作っている。本誌前号「抄本「黒旋風雙獻功雜劇」訳注（第一折）」注38参照。

23）“俺嫂嫂”：『元曲選』本は“嫂嫂”に作る。『元曲選』本では抄本に頻出する“俺”が省略，もしくは“我”や“這”などに作られている箇所が多いが，以下一々提示しない。なお，“俺”は元曲では“俺嫂嫂”“俺哥哥”など謙譲の意を含んだ所有格を作るほか，“俺”単独で用いられる場合は一人称複数を表し，転じて一人称単数の謙譲語，さらに転じて尊大な一人称単数をも表す。複数形が転じて一人称単数となる例には，日本語の「身共（みども）」などがあるが，一人称単数として用いられる“俺”は「身共」よりも下卑た表現となる。

24）“哥也”：『元曲選』本には無い。

25）【金蕉葉】：四句…６○６○６○６○（この曲牌は「越調」に含まれる。『元曲選』本では曲牌の前に“越調”の表記がある。なお，鄭騫撰『北曲新譜』の解説252頁に，“高文秀雙獻功劇用此章兩支作楔子，他處未見”とある）

26）“恕生面少拜職”：“職”は“識”の誤字。『元曲選』本は“識”に作る。なお，『元曲選』本ではこのせりふの前に“我纔說道”という言葉が入っている。

27）“丟眉弄眼色”：『元曲選』本には“眼”の字が無い。これを参考に“眼”を襯字と解し，句形を整えた。

28）“哎約”：『元曲選』本には無い。

29）“哎約，姐姐做多少家鞋弓襪窄”：“鞋弓襪窄”は纏足の形状。足が小さく

弓なりになっている様。“鞋弓襪小”“鞋弓襪淺”などにも作る。周朝俊『紅梅記』「夜走」に“鞋弓襪小行不便，卻如何跋涉顛連”，李漁『閒情偶寄』「演習」付録の『琵琶記』「尋夫」改本に“顧不的鞋弓襪淺，講不起抛頭露面”とある。なお，『元曲選』本には“哎約，姐姐”が無い。

30）“可怕不扮的十分像胎”：“怕不”は反語「よもや～ではあるまい」の意，すなわち，強い肯定を表す。“像胎”は“像態”（様になっている）のことで，“胎”は音通による借用字。“像台”にも作る

31）“天耒大小利害”：“天來大小”は「天ほどの大きさの」，“利害”は「恐ろしいこと」の意。「とんでもない災難が降りかかる」と訳した。

32）“凈店小二上云”：このト書，『元曲選』本では“丑扮店小二上詩云”となっている。抄本には“丑”という脚色は見られないが，『元曲選』では道化役，特にこの“店小二”は“丑”が扮することが多い。なお，鄭振鐸の『中國文學研究』「凈與丑」の説明によれば，“凈”“丑”共に明代に後から付けられた脚色であるという。また，“店小二”は酒屋の主人や番頭などの汎称である。この劇では“火爐店”のあるじと思われるが，せりふ中では「番頭」と訳し，ト書では「店小二」をそのまま用いた。

33）“買賣歸耒汗未消，上床猶自想耒朝。為甚當家頭先白，一夜起耒七八遭”：店小二の定型登場詩。本来自分の利益以外に興味を示さないはずの小市民的道化役の店小二が，真面目にあくせく働いている様をアピールすること自体，滑稽味を帯びた表現となる。

34）“小可人”：一人称の謙譲語，「つまらぬ人間」という意。『元曲選』本は“小可”に作る。

35）“安下”：『元曲選』本は“安歇”に作る。

36）“燒的鏇鍋兒熱，看有是麽人耒”：『元曲選』本は“燒的鍋兒熱着，是有甚麽人來”に作る。

37）“打了夥”：“打夥（伙）”とは「連れ立って」の意。『元曲選』本は“打了火”に作るが，“打了伙”に作るべき。

38）“老官兒們”：『元曲選』本には無い。

39）“俺両箇泰安州占房子便耒也”：『元曲選』本では“不許放甚麽閒雜人等到來攪擾”（余計な者は誰も入れてはならぬぞ）となっており，“閒雜人”，すなわち白衙内が入ってくることを暗示する表現となっている。

40）『元曲選』本ではここに“（搽旦云）你可早些兒來，我可害怕哩。（正末云）嫂嫂你在這裏青天白日，害甚麽怕？”というやり取りが入っている。また，この後の“去耒波”は“去波”に作る。

41）“阿？ 這箇嫂嫂……”：『元曲選』本ではこの正末のせりふは無い。

42）“去也”：『元曲選』本は“哦”に作る。

43）【金蕉葉】：句形は注25参照。『元曲選』本は【么篇】に作る。『元曲選』では同一曲牌が続く場合“么篇”（幺篇）と表記している。なお，南曲では“前腔”と表記する。

44）“也則是看覷俺為人在客”：“也則是”は「やはり」の意，襯字として常用される。“看覷”は，王學奇・王静竹撰著『宋金元明清曲辭通釋』など元曲語彙辞典の類では，『竇娥冤』などの例を引いて“关照、照顧”（世話をする・面倒をみる）の意としているが，ここでは単に「見る」「考慮する」という意であろう。なお，『元曲選』本は“看覷”を“虧着”（幸いにも・～のおかげで）に作る。“為人在客”は「旅の途中の身」という意。

45）“三回五鮮”：「何度も何度も」の意。“三回五次”にも作る（『水滸伝』第一回に“真人三回五次稟説”とある）。“鮮”は回数を数える量詞との解釈があるが，ここは韻字を置く必要から選ばれた措辞と考えられる。

46）“我便来也”：『元曲選』本は“我就回來也”に作る。

47）“正末扯孔目走科唱”：『元曲選』本はこのト書を“正末扯孔目做走科云”に作る。以下，“天色晚也”（『元曲選』本は“天色將晚也”に作る）までが『元曲選』本では“云”（せりふ）になっており，その後に“唱”（うた）のト書があり“則去兀那泰安州……”以下が曲辞となっている。『北曲新譜』記載の句形に鑑みても，“天色晚也”まではすべて襯字になるため，せりふと見なすほうが合理的である。

48）“屬付”：“囑咐”（言いつける）のこと。“咐”は口偏の無い“付”も多用されるが，“屬”は“囑”の誤り。前の句では“囑付”に作っている。なお，『元曲選』本は“囑付”に作る。

49）“尋一箇家頭房子裏喒去来”：『元曲選』本は“尋一個家頭房子去來”に作る。

50）“是”：『元曲選』本は“自”に作る。

51）“白衙内云”：『元曲選』本はこのト書を“做叫科云”に作る。

52）“俺去来”：『元曲選』本は“俺和你去來”に作る。ここでの抄本の“俺”は一人称複数を表すが，『元曲選』本では一人称単数として認識しており，かつ性別に影響されないという点で興味深い。注23参照。

53）“外前”：『元曲選』本は“外邉”に作る。

54）“泰安州”：『元曲選』本は“泰安神州”に作る。前出の“泰安神州”との統一を図ったものと思われるが，直前の【么篇】（【金蕉葉】）の曲辞の中では“泰安州”となっている。

55）“我那大嫂他”：『元曲選』本は“我的大嫂”に作る。

56）“哥，是我”：『元曲選』本は“哥也，是我在這裏”に作る。
57）“你怎麽在這里？ 店小二”：『元曲選』本は“你怕不在這裏！ 只問你”（お前がおるのは当たり前だろうが。訊くが……）に作る。
58）“你那嫂嫂平白的他要唱，唱是麽“眉兒鎮常圪皺””：『元曲選』本は“你大嫂平白的唱甚麽“眉兒鎮常圪皺””に作る。
59）“外前一箇人也唱了一聲”：『元曲選』本は“外邊一個人也唱了一聲，道是”に作る。
60）“一箇說“念児”，一箇道“衙内””：『元曲選』本は“一箇叫“念児”，一個叫“衙内””に作る。
61）“由閑可”：“還不要緊”（まだまし，かまわない）の意。
62）“渾家好妍貌，生的十分俏，被人拐了去，須索把状告”：孫孔目の退場詩。『元曲選』本は“妍貌”を“容貌”に，“拐了去”を“拐去了”に作っており，前にト書“詩云”が入っている。
63）“草參亭”：未詳。『元曲選校注』・「『黒旋風』注釈」（『中国俗文学研究』3）とも注は付されていないが，泰安付近の地名か。
64）“不見了”：『元曲選』本は“不見”に作る。
65）“時遇春天，是好景致也”：『元曲選』本は“你看，時遇春天，是好景致也呵”に作る。
66）【點絳唇】：四句…4○7［句中韻］×4○5○
67）“柳絮飛花，亂紅飄葉［。］紛紛謝”：“亂紅”は舞い散る赤い花びらのこと。欧陽脩の詩「蝶戀花」に，“淚眼問花花不語，亂紅飛過鞦韆去”とある。なお，『元曲選』本はこの二句を“柳絮堪撦。似飛花引惹［。］紛紛謝”に作る。『北曲新譜』によると第一句は押韻することになっており，抄本の句はこれに符合しない。ただ，『北曲新譜』は元来『元曲選』の曲辞を帰納したものであるため，抄本の曲辞には符合しない箇所もままある。
68）“堪”：『元曲選』本は“宜”に作る。
69）【混江龍】：九句…4△7○4△4○7△7○3△4△4○
70）“你覷那推車打擔，客旅人絶”：“人”は“不”の誤字であろう。この二句，『元曲選』本は“你覷那往來不斷，車馬相接”に作る。
71）“踈刺刺日偏斜”：『元曲選』本は“踈刺刺布帘兒斜”に作る。“踈刺刺”は，風が吹く様を表す擬声語。“疏喇喇”“疏辣辣”“疏辣沙”“束刺刺”“率刺刺”“疏刺刺沙”“束刺刺刷”にも作る。また，空虚な様（“空蕩蕩”）や疎（まば）らな様（“稀拉拉”）をも表す。抄本では陽光が斜めにまばらに射し込んでいる様を形容しており，『元曲選』本では“布帘兒”（暖簾）が風に揺れている様を表していると考えられる。なお，曲辞における擬声語・擬態語は，二字もし

くは三字を一拍としてうたった可能性も考えられる。詳しくは後出の注77を参照。

72)“你覷那做買賣的人家業。人煙熱鬧，買賣宜別”：『元曲選』本は“可知道你做營運的家家業。大古裏人烟熱鬧，買賣稠疊”に作る。

73)『元曲選』本にはこの正末のせりふは無い。

74)【油葫蘆】：九句…7○6○7○7○7○3△3○7○5○

75)“你覷那”：『元曲選』本は“怎當這”に作る。

76)“搭旦”：“搽旦”の誤り。『元曲選』本は“搽旦”に作る。

77)“七留七林”：“七留七力”“出留出律”“赤留出律”“赤留兀剌”“尺留出呂”などにも作り，歩く様を表す。『元曲選校注』では“形容鞋底綷縩之声”（靴底が擦れる音を表す），同じく『宋金元明清曲辭通釋』では“形容步履綷縩或滑行之声”（歩む際の衣擦れの音，または滑らかに歩く音を表す）という擬声語であるとしているが，「『黒旋風』注釈」は朱居易の『元劇俗語方言例釋』の解説を引いて「ゆっくりと」という意を表す擬態語としている。また，同じ擬態語でも，劉瑞明『元曲疑難詞語辨義』は“突地，輕快”（軽快な様子）の意であるとしている。ここでは，李逵がゆっくり歩きながら景色を鑑賞しているさまを表すとも考えられるが，むしろ春に賑わう人々を横目に旅籠への道を急いでいると解釈したほうが，白衙内が乗る馬を避けられずに転ばされてしまうことに繋がりやすい。総合すると，この“七留七林”は，衣擦れの擬声語からスムーズに歩いていく様を表す擬態語へ変化した言葉（「ゆっくり」ではない）と考えられる。ちょうど日本の狂言でよく用いられる「さらりさらりと参ろう」の「さらりさらり」に相当するであろう。なお，ここは『元曲選』本との相違がないため，『北曲新譜』が示す句形・平仄に当てはまる。この句“我這里七留七林行”の襯字でない曲辞は三字で，二字目の平仄は「仄」である。“我這里”は往々にして襯字になるため，二字目は二番目の“七”しか取れない。ここで，擬声語・擬態語は二字もしくは三字を一字として換算した可能性が考えられる。つまり，この句では，“七留”を一字目，“七林”を二字目，“行”を三字目と数えて三字句にするということである。曲辞はうたうものである。音韻学的に“qiliu”が一音節になることはないが，一音節的に（一拍で）うたうことは可能であると推測される。以下の“叨叨絮絮”，“赤留兀剌”，【醉中天】の“刮刮匝匝”なども同様。注71の“踈剌剌”も，あるいは同様か。ただし，【原文】の表記としては，それぞれの先頭の字に標点を付し，『北曲新譜』が示す句形に当てはめるに止めた。擬態語・擬声語と襯字の関係については更に検討する必要がある。

78)“叨叨絮絮”：「ぺちゃくちゃと絶え間なくしゃべる様」を表す擬態語。『元

曲選』本は“必丢不搭”に作るが，ほぼ同義。

79)“交”：『元曲選』本は“脚”に作る。

80)【天下樂】：七句…7○2△3○7○3△3○5○

81)“跌”：『元曲選』本は“攧”に作る。

82)“我和你便”：『元曲選』本には無い。

83)“怎生不見俺嫂嫂”：『元曲選』本では“(正末云) 哥也，可怎生不見俺嫂嫂麼？”に作っており，この前に“我因放我大嫂不下，我先回來看他。誰想這店中不見了大嫂也”という孫孔目のせりふが挿入されている。

84)『元曲選』本ではここに“孫孔目勸”というト書が入っている。正末李逵が店小二を殴ろうとして，孫孔目がそれを止めるしぐさをするということであるが，これによって，この後のせりふ“哥也，你放手”が正末の孫孔目に対するものであることがより明確になっている。

85)【醉中天】：七句…5○5○7○5○6○4○6○（『元曲選』本はこの曲牌を【醉扶歸】に作るが，曲辞はほぼ同じ。【醉扶歸】のここでの句形は七句…5○5○7○5○6○5△[増句]5○，第六句と第七句は“**我恨不的一把火刮刮匝匝。燒了你這村房舍。**”となる。なお，『北曲新譜』によれば，末句の韻字が【醉扶歸】は去声，【醉中天】は平声となる。ゆえに，『元曲選』本では曲牌を【醉扶歸】に改めたのであろう）

86)“搬”：『元曲選』本は“掰”に作る。

87)“搬放”：『元曲選』本は“掰住”に作る。

88)“您”：二人称複数，“你們”。“俺”と同じく（注23参照），複数形から尊敬の意を含む単数形に転ずる人称代名詞であるが，元曲の中での“您”は基本的に複数形と考えられる。注22の“您兄弟”も，“您”が尊敬語となるのではなく，“您兄弟”全体で謙譲語となる。なお，『元曲選』本は，「店小二個人の家（店）」と解釈するためか，“您”を“你”に作っている。

89)“不曾赶”：『元曲選』本は“因爲趕着哥哥，不曾去得”に作る。

90)“我見那厮穿的那衣服鞍馬”：『元曲選』本は“我見那厮的衣裳鞍馬”に作り，この後に“說起來”が入っている。

91)『元曲選』本ではここに次の一曲が挿入されている。

“**【一半兒】我適纔途中馬上見他些。那一個婦人疊坐着鞍兒把身體趙。那一個喬才横摔着鞭兒穿插的别。我打個模狀兒說。可不道有一半兒朦朧，倒有一半兒切。**”

92)“店小二，着我兄弟說他穿的衣服，和你両箇對，看是他麽”：『元曲選』本は“店小二哥，你只聽我兄弟說他穿的衣服，和你兩箇對着，可是他麽”に作る。

93)【後庭花】：七句…5△5○5△5○3○4△5○

94)“似”：『元曲選』本は“是”に作る。

95)“減鐵”：陸澹安『戯曲詞語匯釋』に“成色不足的銀子”とあるが，ここでは「くろがね」と訳した。『元曲選校注』・「『黒旋風』注釈」共に未詳としている。

96)“正是”：『元曲選』本は“這個一發是了。他叫做什麼衙内。”に作る。また，一つ前のいれぜりふでは“正是”を二回繰り返している。

97)“那厮常好是……一箇女艶質”：『元曲選』本では“那厮暢好是忒唏嘘。且莫說他鰔兒小鷂，吹筒粘竿有諸般來擺設。只他馬兒上更馱着一個女艶治”（句形は第七句の後に五字句を増句した八句）となっている。

98)“去了罷”：『元曲選』本は“我渾家去，可怎了也”に作る。

99)“我與你赶去”：『元曲選』本では“我和你趕將去”となっており，この後に以下の店小二の正末に対するせりふ（楔子末の孫孔目に対するせりふの繰り返し）と【醉扶歸】一曲が挿入されている。

“（店小二云）哥，我對你說。那個婦人在店裏面唱一聲道“眉兒鎮常扢皺”；那一個衙内在店外面唱一聲道“夫妻每醉了還依舊”。一個叫道“衙内”；一個叫道“念兒”。無三念，無兩念，只一念便念得走了。（正末唱）

【醉扶歸】那婦人呵他唱一句爲關節。那喬才呵他應一句到來也。兩下裏慌速速怕甚麽途路賒。必然個寬打着大週摺。我和你疾忙趕上者。將他一雙的在馬前拽。”

100)【尾聲】：十句…3△3○7○7○7○7[句中韻]○7○4○4○7○（この曲牌名は【賺煞】【賺尾】【賺煞尾】【煞尾】【賺煞尾聲】【尾】にも作る。『元曲選』本は【賺煞尾】に作る）

101)“去呵”：『元曲選』本には無い。

102)“東泰嶽相逢磕塔的揪住玉結”：『元曲選』本は“東嶽廟磕塔的相逢無話說”に作る。

103)“萬事都休”：『元曲選』本は“萬事無些”に作る。

104)『元曲選』本ではここに“若是”が入っている。

105)“我也家去了罷”：『元曲選』本は“也不開這酒店罷”に作っており，この後の店小二の退場詩の部分が“（詩云）今日造化低，惹場大是非。不如關了店，只去吊水雞。（下）”（（詩）今日はついてねえ，とんでもねえことが起こっちまった。店閉めて，蛙でも釣りに行ったほうがいい。（退場））となっている。